

論理学〈H05A〉

配当年次	全学年
授業科目単位数	4
科目試験出題者	古田 裕清
文責(課題設題者)	古田 裕清
教科書	基本 古田 裕清『論理学』(中央大学通信教育部)

《授業の目的・到達目標》

明確な根拠を提示して説得的に立論できる能力(相手の攻撃に耐える防御力を持った文章を作る能力)、他者の立論を的確に把握して批判できる能力(相手に対して効果的な攻撃ができる能力)、すなわち、トータルで見た論理的思考力を高めてもらうこと。メリハリの効いた立論能力、的確な批判能力は、日常生活でも、職業(法曹含む)生活上も、また学問的営為にも、大変に有益であるばかりか、必要不可欠です。

このように言うといかにも抽象的で、より具体的な到達目標を明示してほしい、という声が聞こえてきそうですが、そうした明示はなかなか困難です。北朝鮮問題や原発問題などどんな具体的社会問題についても、新聞報道や政府発表を鵜呑みにせず、「本当にそう言えるのか」という冷徹な批判的精神を持って責任ある一社会人としての自分の立場を立論する能力をつけてもらうのが目標だ、と言ってもよいでしょう。これは法律の勉強にも直接関係する能力です。要件に該当する事実があり、それゆえ効果が発生する、ということを立証する能力が法曹には求められます。こうした能力の向上に資することもこの科目の目標となります。

また、より直接的・具体的には、たとえばロースクール入試で課される適性試験(2018年度から休止中)への対応能力を身につけることも目標となります。適性試験で出題される問題は、法曹職への適性だけでなく、日常生活・職業生活・学問的営為一般において必要な論理的思考力を測る尺度ともなります。いろんな例題を解きながら、適性試験の問題パターンを解説し、そこで何が測られることになるのかを知ってもらうことで、自身の論理的思考力のアップにつなげてもらいたいと思います。

《授業の概要》

論理学は、論証(根拠から結論を導き出す思考のステップ)についての学問です。私たちの日常生活・職業生活・学問的営為は、論証の構造であふれています。根拠のない主張をする人は信用されないし、学問的には無意味です。実社会における紛争もこれでは解決できません。論証を正しく行う能力、間違った論証を見抜く能力は、法学部生に必須です。この能力を、私たちの身近な思考に潜む論証の構造を反省し、論理的思考のトレーニングをすることで、アップさせましょう。

論証は、根拠となる文(たとえば「きょうは夕焼けが美しい」)から結論となる文(たとえば「あしたは晴れだ」)を導き出すステップです。つまり、ある文を別の文と結び付ける(「それゆえ」「従って」「だから」等々の接続詞を使うなどして)ステップです。論理学は広義では文と文の結びつき一般に関わります。論証はその中でも論理的に最も重要な結びつきです。私たちは論証以外にもさまざまな接続関係を駆使してたくさんの文を結び合わせ、文章を作ります。人に読ませる文章は、論理的に説得力があるものでなくてはなりません。こうした文章を作る能力は、論理的構成力と呼ばれます。この能力もアップさせま

しょう。

伝統的な論理学は、私たちの日常的思考の中から、正しい論証の型を抜き出し、その構造を探究するものでした。インドや中国にも論理学は発生しましたが、特に発達したのは古代ギリシア以降の欧州文化圏においてです。アリストテレスが定式化した三段論法はその古典的な成果です。

19世紀後半になるとベン図が開発され、命題論理や述語論理など現代論理学の基礎となる部分が明確化されました。現代の論理学は、私たちの思考に潜むさまざまな形式的構造を数学的に探究する学問領域になっており、主に理学部の数学科で研究されています。授業ではこうした論理学の成果も取り上げますが、力点はあくまで日常的思考の論理に置きます。

《学習指導》

本科目は知識の暗記・詰め込みを目指すものではありません。教科書を暗記しても「自分自身の思考力をアップさせる」という目標には到達しません。教科書の助けを借りて自分自身の思考を論理的に洗練させ、その成果を法律の勉強や広く日常生活で次第に実感していく、という姿勢で臨んでください。日頃から社会的事象に興味・関心を持ち、新聞を批判的に読み、政治、経済、文学、思想など幅広い分野の読書をして自分の意見を形成する、ということをしていれば、論理的思考力は一定程度、自然に伸びていくものです。本科目はそうした思考力の改善・洗練を目指すものです。

学習上発生する疑問点について、自宅から書面で質問することもできますが、やりとりで時間がかかる、書面での解答だと説明が不十分で不満が残る、などの可能性が否定できません。トレーニングを目指す論理学にとって教員と相対しての面接授業（スクーリング）への参加は本来、必要不可欠です。中大の通教ではスクーリングに参加せずに単位を修得することも可能になっていますが、ぜひスクーリングに参加し、教員に直接、納得のいくまで質問してください。スクーリング参加のタイミングは、教科書を一通り読み終えて（疑問点を洗い出す）レポート課題に進んだ（問題文を読んで一度、考えてみる）後、実際にレポート課題を作成する直前くらいがベストです。教員としても、受講者と顔を合わせる貴重な機会だと考えていますので、どんなことでも臆せず質問してください。スクーリングではレポート課題について分からないことを質問してもらっても結構です（もちろん、答えは教えられません）。

なお、論理はすべての人間の思考に通底するものであり、論理学はその意味であらゆる学問領域と密接に関連しています。特に法律学はどんなジャンルも論理展開の塊のような学問なので、論理トレーニングをすれば必ずそれが法律学の勉強に活かされるはずです。この意味で、「体系的に学習するために同時に履修するのが望ましい科目」を絞り込むことは困難です。強いて挙げれば哲学と統計学でしょう。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

論理学〈H05A〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：課題により異なる（指示がない場合は、1 課題 2,000 字程度）

第1 課題

- 1) 38 度を超える発熱があり、悪寒がして体がだるい。ただの風邪だろうか。インフルエンザだろうか。新型コロナに感染したのか。それとも実はウイルス感染ではなく、コロナ禍のストレスで神経に異常な負荷がかかった結果に過ぎないのか。このように考える人は、風邪仮説、インフルエンザ仮説、新型コロナ仮説、ストレス仮説、この四つの代替仮説を並列提起していることになる。それぞれの仮説について、その仮説を消去するにはどのような事実を集めたらよいか。「仮説」「事実」「消去」という語を用いつつ、それぞれ 200 字程度で簡明に述べなさい（合計 800 字程度）。
- 2) 新型コロナウイルスはこうも由来だと推測されている。雲南省のキクガシラコウモリの糞から新型コロナウイルスと塩基配列が 96% 同じコロナウイルスが検出されている。このこうもりのウイルスがサンゼンコウ（中国で薬用や食用に使われる小動物）にうつり、サンゼンコウの体内で変異して人間にうつったのではないかと考える学者が中国には多い。他方、中国科学院武漢ウイルス研究所で培養していた生物兵器用のコロナウイルスが漏出した、という仮説を唱える人もいる。この二つの仮説それぞれについて、その仮説を補強するためにはどんな事実が発見されたらよいだろうか。自由な想像を交えながらもよいので、「仮説」「事実」「補強」という語を用いつつ述べなさい（それぞれ 300 字以上は書くこと）。
- 3) 新型ウイルス流行後、効果的な医薬品を探す試みが続けられた。たとえば肺炎が進行して免疫系の暴走状態（サイトカインストーム）に至った患者に対しては、抗炎症薬（ステロイド系）デキサメタゾンが一定の鎮静効果を発揮することが分かってきた。他方、既存の抗ウイルス薬については効果がはっきりしない。エボラ熱の抗ウイルス薬として開発されたレムデシビルは、新型コロナウイルスのヒト細胞内での増殖抑制効果があると期待されたが、投与例を積み重ねても効果が実証されたと言い難い状況である。富士フイルムが開発した新型インフルの抗ウイルス薬アビガンも同様である。アビガンが効く、というのは仮説にすぎない。人間は不安に駆られると不安解消の期待を込めて様々な仮説（時にデマですらある仮説）にしがみつこうとする。かつて「神風が吹いて日本は戦争に勝つ」と喧伝されたのもそうしたデマ的な仮説の一つと言える。新型コロナ感染症への不安におびえる人々の間では様々な期待を込めた仮説（信憑性の薄いデマ的な仮説を含む）が流布された。そうした仮説の実例を 2 つ、自分で探して記述しなさい。記述に際しては「仮説」「説明」「事実」という語を用いつつ、それぞれの仮説がどんな事実を説明しようとするものを敷衍すること（それぞれ 300 字程度）。

第2課題

次の文章を読み、トピカを考慮しながら2000字程度で反論しなさい。

日本学術会議は、戦前戦中の学者たちが戦争に協力した反省に立ち、戦後日本が掲げた平和国家の理念に相応しい学術政策を学者自身が決定すべく、政府から独立した特別機関として国の責任で設置された。会員は当初、選挙制だったが、日本共産党に実質支配された時期が続いたため、20世紀後半に学会による推薦制へと変更されて現在に至っている。

2020年10月、菅首相は推薦された会員候補のうち6名の任命を拒否した。日本学術会議法の従来の解釈によれば、首相による会員の任命は形式的なものであり、被推薦者に対して首相は政治的理由による積極的な任命拒否権を持たない。菅氏による任命拒否の後、政府が2014年から会員人選に口を出し始めたこと、そして2016年以降は首相が政治的理由で任命拒否権を行使することが可能だと解釈変更したこと、が判明した。政府はこれを解釈変更だと認めていないが、菅氏の好きな「国民の当り前」感覚で見ると明らかに解釈変更である。この変更について、そしてこの変更が4年もの間、国民から隠蔽されていたことについて、政府は国民への説明責任を負う。しかし、その説明責任を政府は果たそうとしない。

なぜ果たそうとしないのか。菅氏は「人事に説明は不要」とも主張する。首相の指揮系統下の公務員ならそうかもしれない。しかし、上述の通り、学術会議は政府から独立した特別機関である。仮に百歩譲って首相が政治的理由で任命を拒否する権限を持つとしても、6名それぞれについて、会議側の推薦理由を破る強力な拒否理由を示す責任（立証責任）が首相に生じている。これは法律を学んだ人には自明だろう。しかし、その責任を菅氏はやはり果たそうとしない。

菅氏のみならず自民党は長年、学術会議を敵視してきた。昨今の日本を取り巻く世界情勢を考慮すると、たとえ平和国家であっても軍事関連研究を含む戦略的な学術政策が必要である。中国への技術流出へのガードも重要だ。学術会議はこうした点をも考慮して建設的な議論をすべきだ。こうした思いが自民党には強い。菅氏はおそらく、過去の言動からこの期待に応えられないと考えた6人を標的として任命拒否したのだろう（杉田副官房長官が菅氏の手足となったのは論を待たない）。ならば、首相の口からそう国民に説明すべきである。安部前首相は共謀罪や集団的自衛権について国会で理由を述べて説明した（その説得力については争いがある）。菅氏が法解釈の変更理由を説明しないまま任命拒否し、しかも任命権を盾に取り拒否理由の説明も拒否するのは、三権分立と法の支配を破壊する独裁である。スマホ値下げで世論の歓心を買ってごまかせる次元の話ではない。任命拒否したいなら、まずはそれを可能にするよう日本学術会議法を改正するのが筋である。それをせず強引に法解釈を捻じ曲げる菅氏の態度は、「南シナ海の紛争は法の支配により解決を」という前首相の言葉を空虚化する。日本のスガは独裁者習近平の同類、と世界に誇示したに等しいからである。菅氏のような人物が「南シナ海に法の支配を」と発言しても偽善にしかならない。この意味で、菅氏の態度は国益を根底から破壊している。これに思い至る能力を欠く菅氏は、首相に不適格であり、即刻辞職すべきである。

では、菅氏が任命拒否理由を上述のように明言したら、それに説得力があるだろうか。学術会議はフランスなら科学アカデミーに相当する。欧米の科学アカデミーは伝統的に民間団体であり、短周期で揺れ動く民意やその都度の世界情勢から距離を置き、必要ならば時の為政者や国民自身にとって耳が痛いことでも学問的良心に従い警鐘的に発信する。その発信は長い歴史を通して見ると結局、国民のため、人類のためになる。この意味で、学問の自由は極めて重要である。国民は時に判断を誤り、とんでもない政治家を自由選挙で選ぶこともある（ヒトラーがそうだった）。こうした過去の経験からも学んだ欧

米の諸国民は民間団体のアカデミーに税金投入して支え、その発信に敬意を払う。百五十年前に国際社会へ投げ出された日本には、こうしたアカデミーが長らく存在しなかった。その欠損を埋めるべく、そして二度と道を誤らないために、戦後日本は日本学術会議を国の責任で、国家機関として設立した。こうした性格の団体である学術会議に、時の政府が「税金投入しているのだ、国民が選んだ政府の言うことを聞け」「逆らうと任命拒否だ」と介入するのは、警鐘者的な団体は不要だ、時の国民の意思は無謬かつ絶対だ、と主張するに等しい。もしもこの主張がまかり通るなら、日本は諸外国から「近視眼的な視座しか持たず、歴史の教訓を忘却して独善に陥りかねない危険な国」と疑われ、その国際的信認は確実に揺らぐだろう。

検察も学術会議と同様の独立機関である。2020 年前半、政府が検察に人事介入しようとして世論の反発を買った。検察が政府から独立していることの重要性を一般国民がよく理解しているからだろう。これと比べて、学術会議の警鐘者的役割は国民に実感されにくい。菅氏の任命拒否は政権支持率の大きな下降を招かなかった。だが、共に独立機関である検察と学術会議への人事介入は、同じ問いを我々に突きつける。すなわち、何のための独立性か。選挙で勝てばその独立性を侵してよい、と考えるのは誤りである。学術会議が自民党の指摘する課題を抱えているのは事実だろう。だが、これは国民的議論を経て最終的には立法府が解決すべき問題である。しかるに、一部マスコミや自民党の議員たちは学術会議に関するデマを流し、「政治主導の行政改革を」などと論点すり替えを行って菅氏の擁護に躍起となっている。こういう人たちを選挙で選び続ける日本国民の将来は暗いと言わざるを得ない。

第3課題

次の命題論理式の真理表を書いてください。

課題 A (P または Q または R) ならば $\neg(\neg P \text{ かつ } \neg Q \text{ かつ } \neg R)$

課題 B ((P ならば Q) かつ ($\neg P$ ならば R)) ならば (Q または R)

第4課題

次のことが判明したとする。

- 1 太っ腹で腹黒い人はカネ持ちだ。
- 2 カネ持ちは子分が多い。
- 3 ただし、カネ持ちでも太っ腹でないと子分が多くはない。
- 4 アベシンゾウはカネ持ちで子分が多い。

課題 A 以上のうち、2～4をそれぞれベン図で表現しなさい。そして、これら3つのベン図を重ね合わせて一つのベン図上に表現しなさい。

課題 B 1～4を踏まえて、次のことが言えるか。日本語で、条件連鎖などを用いて、聞き手に分かり易く説明しなさい。

B-1 アベシンゾウは太っ腹である

B-2 アベシンゾウは腹黒い

〈推薦図書〉

野矢 茂樹	『論理トレーニング』〔新版〕(2006 年)	産業図書
野矢 茂樹	『論理トレーニング 101 題』(2001 年)	産業図書
所 雄章	『論理学』(1988 年)※	中央大学出版部
三浦 俊彦	『論理学がわかる事典』(2004 年)※	日本実業出版社
山下 正男	『論理的に考えること』(1985 年)	岩波書店

※絶版だが、良書なので図書館等で出来れば参照すること。